

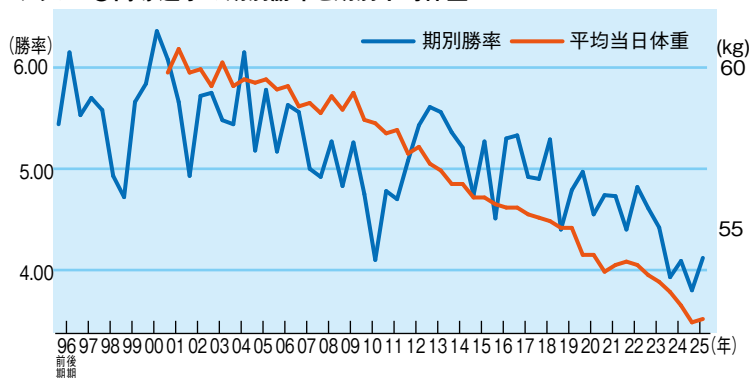
## ひまひま データ

数字で遊ぶ  
ボートレース

オフライン

約60年走り続けてきた高塚清一選手を偲び、様々な記録をまとめます

グラフ1 ●高塚選手の期別勝率と期別平均体重



高塚清一選手の訃報を聞き、とても驚いています。あまりに突然で、明日の出走表に高塚選手の名前があっても驚かない、そんな感覚が続いています。

私が「高塚清一」選手の名前を知ったのは江戸川でした。30年以上前ですが、当時は江戸川を専門に走っているかのような選手がたくさんいた印象があります。宮野日富美・吉岡勤・元井秀行・田中実選手など、高塚選手のように関東地区以外の重量級選手が多くいました。

当時、85年以降通算成績をハイド口とランナに分けて記載されている専門紙がありまして（↑ポートルレース研究です）、高塚選手はランナの出走が多い選手ということが記憶に残っています。ランナ戦の最高峰であるGⅡランナー王座（89年〜92年）では優勝3回の木下青海選手がいたため高塚選手は優勝はできていませんが、3回の優出があるようです。

第5回ランナー王座はランナの乗り手が少なくなり、「一般戦」としてランナとハイド口のW優勝で行われたようです。こちらも木下青海選手が優勝で高塚選手は優出して4着。

一般を含め5回行われたランナー王座で、高塚選手と木下選手だけが4回優出しています。

どんなに待っても30年以上前に廃止されたランナを見ることはできない状況でしたが、高塚選手がランナに乗っているところを一度見てみたかった。それが本来の高塚選手の姿だったのかもしれない。

### 96年前期以降の期別勝率と体重

その頃の高塚選手は、60kgは軽くオーバーしている重量級の選手でした。重くてもスタート力で勝っていたように思います。いつ頃からか58kg台を見かけて減量をされているのかなと思っていました。さらにはいつの間にか高塚選手は重量級選手ではなくなっていたのです。

グラフにしてみました（グラフ1）。体重は3年で1kgという少しずつの減量でゆっくり下がっていたようです。この減量が高塚選手の後年の強みにもなっていたのではないのでしょうか。

つい最近では体重制限どおりの52kg台。去年の8月20日、30日のF休み明けびわこ初日では、1走目で51・5kgという記録が残っています。もしかすると高塚選手の人生初の「調整重量」500gだったのではないのでしょうか。

勝率はグラフにしてみると右肩下がりに見えてよくないかもしれませんが、60代に入って（08前期以降）も勝率5点前後をキープし、70代に入っても4・80前後を維持していたことがわかります。本当に凄いです。

### その時々々の最年長選手の変遷

高塚選手は15年5月、68歳のときに加藤峻二選手から最年長を引き継ぎました。それから9年以上に渡ってこのボート界を引っ張ってこられました。いや2歳、年下の高橋二郎選手とともに言っているのいか

表1 ●その時々最年長選手の変遷

| 最終出走       | 登番   | 選手名   | 登録 | 生年月日       | から      | まで      | 最年長期間  |
|------------|------|-------|----|------------|---------|---------|--------|
| 85年7月頃     | 491  | 勝元 忠彦 | 京都 | 1917/8/22  |         | 67歳11か月 | 10数年   |
| 86年3月頃     | 762  | 高浜 政義 | 長崎 | 1924/2/5   | 61歳5か月  | 62歳1か月  | 7か月    |
| 92年6月頃     | 1025 | 藤原 辰馬 | 岡山 | 1926/6/20  | 59歳8か月  | 65歳11か月 | 6年3か月  |
| 94年6月頃     | 400  | 岡村 寛  | 大阪 | 1929/1/23  | 63歳4か月  | 65歳4か月  | 2年0か月  |
| 94年11月頃    | 1077 | 相良 宗光 | 長崎 | 1931/1/8   | 63歳5か月  | 63歳9か月  | 4か月    |
| 1996/12/15 | 311  | 池田 和作 | 香川 | 1931/2/28  | 63歳8か月  | 65歳9か月  | 2年1か月  |
| 2001/2/24  | 310  | 安岐 義晴 | 香川 | 1931/5/18  | 65歳6か月  | 69歳9か月  | 4年2か月  |
| 2002/5/13  | 928  | 森田 敏  | 長崎 | 1934/1/22  | 67歳1か月  | 68歳3か月  | 1年2か月  |
| 2003/1/05  | 1370 | 小澤 成吉 | 愛知 | 1939/7/15  | 62歳9か月  | 63歳5か月  | 7か月    |
| 2004/3/22  | 1531 | 井上 弘  | 群馬 | 1939/11/13 | 63歳1か月  | 64歳4か月  | 1年2か月  |
| 2006/3/21  | 1781 | 谷川 宏之 | 愛知 | 1940/2/23  | 64歳1か月  | 66歳0か月  | 1年11か月 |
| 2015/5/6   | 1485 | 加藤 峻二 | 埼玉 | 1942/1/12  | 64歳2か月  | 73歳3か月  | 9年1か月  |
| 2025/2/27  | 2014 | 高塚 清一 | 静岡 | 1947/3/7   | 68歳2か月  | 77歳11か月 | 9年9か月  |
| 現役選手       | 2538 | 高橋 二郎 | 東京 | 1949/4/26  | 75歳10か月 |         |        |

しれません！ボート界のその時々最年長選手を追ってみました（表1）。この表は、引退届が受理された日ではなく、最終出走日を引退日のようにして集計しています。

勝元忠彦選手は登録されたボートレーサーでは11番目の年長選手ですが、勝元選手よりも年上の選手が54歳くらいまで走っている可能性があります。その選手の引退後から勝元選手が最年長で68歳の誕生日に引退届を出されたようです。その当時は68歳を超えても走る選手は今後

表2-1 ●歴代、70歳以上で優出

| 年齢      | 登番   | 選手名   | 年月日       | 場 | 優勝戦 |
|---------|------|-------|-----------|---|-----|
| 76歳0か月  | 2014 | 高塚 清一 | 2023/3/7  | 浜 | 4着  |
| 75歳6か月  | 2014 | 高塚 清一 | 2022/9/8  | 浜 | 6着  |
| 72歳3か月  | 1485 | 加藤 峻二 | 2014/5/6  | 戸 | 3着  |
| 71歳11か月 | 2014 | 高塚 清一 | 2019/2/17 | 戸 | 4着  |
| 71歳2か月  | 1485 | 加藤 峻二 | 2013/3/25 | 戸 | 優勝! |
| 70歳2か月  | 2538 | 高橋 二郎 | 2019/6/28 | 蒲 | 6着  |

表2-2 ●歴代、70歳以上で準優1号艇

| 年齢     | 登番   | 選手名   | 年月日      | 場 | 準優 |
|--------|------|-------|----------|---|----|
| 74歳1か月 | 2014 | 高塚 清一 | 2021/5/4 | 浜 | 5着 |
| 71歳9か月 | 2014 | 高塚 清一 | 2019/1/5 | 浜 | 6着 |
| 70歳5か月 | 1485 | 加藤 峻二 | 2012/7/3 | 宮 | 5着 |

表2-3 ●歴代、コース別1着の最年長記録

| 進入 | 登番   | 選手名   | 年月日       | 場  | 年齢      |
|----|------|-------|-----------|----|---------|
| 1  | 2014 | 高塚 清一 | 2025/1/25 | 平  | 77歳10か月 |
| 2  | 2014 | 高塚 清一 | 2024/3/29 | 浜  | 77歳0か月  |
| 3  | 2014 | 高塚 清一 | 2023/6/24 | 江  | 76歳3か月  |
| 4  | 2014 | 高塚 清一 | 2024/9/14 | 江  | 77歳6か月  |
| 5  | 2014 | 高塚 清一 | 2023/5/22 | 琵琶 | 76歳2か月  |
| 6  | 2014 | 高塚 清一 | 2022/3/14 | 浜  | 75歳0か月  |

表2-4 ●96年以降、連勝数別の最年長記録

| 連勝数 | 登番   | 選手名   | 年月日        | 場 | 年齢     |
|-----|------|-------|------------|---|--------|
| 7連勝 | 2876 | 鈴木 幸夫 | 2018/9/24  | 常 | 61歳1か月 |
| 6連勝 | 2876 | 鈴木 幸夫 | 2018/9/24  | 常 | 61歳1か月 |
| 5連勝 | 3024 | 西島 義則 | 2025/1/15  | 尼 | 63歳2か月 |
| 4連勝 | 1710 | 万谷 章  | 2011/11/26 | 下 | 68歳0か月 |
| 3連勝 | 2014 | 高塚 清一 | 2020/10/31 | 平 | 73歳7か月 |
| 2連勝 | 2014 | 高塚 清一 | 2023/6/25  | 江 | 76歳3か月 |

表2-5 ●96年以降、節間1着数別の最年長記録

| 節間1着数 | 登番   | 選手名   | 開催初日       | 場 | 最終日年齢   | 節間成績         |
|-------|------|-------|------------|---|---------|--------------|
| 節間8勝  | 3024 | 西島 義則 | 2024/10/15 | 桐 | 62歳11か月 | 161111121①   |
| 節間7勝  | 2276 | 古谷 猛  | 2013/2/23  | 芦 | 63歳0か月  | 111511411②   |
| 節間6勝  | 3024 | 西島 義則 | 2025/1/30  | 鳴 | 63歳3か月  | 111F111      |
| 節間5勝  | 2538 | 高橋 二郎 | 2021/10/13 | 平 | 72歳5か月  | 1316S31114   |
| 節間4勝  | 2014 | 高塚 清一 | 2021/4/29  | 浜 | 74歳1か月  | 213146113532 |
| 節間3勝  | 2014 | 高塚 清一 | 2023/6/22  | 江 | 76歳3か月  | 6132114      |
| 節間2勝  | 2014 | 高塚 清一 | 2024/3/2   | 浜 | 77歳0か月  | 4416266312   |

・年長連勝記録（表2-4）  
連勝数別の年長記録です。これは2年ほど前に作成したことがありますが、5連勝を西島義則選手が更新、2連勝を高塚選手が自身の記録を更新しています。例えば、67歳の選手が4連勝を達成しても、それは68歳の時に万谷選手が達成しますよ。という意味になります。

3連勝は高塚選手が持つており、この記録を更新するには73歳8か月までレーサーを続けてさらに3連勝をした場合に更新されます。

昔の記録がわかればいいのですが、過去の記録を知るのとはとても難しいです。初出走が18歳7か月だった

高塚選手の記録

も現れないと思われていたのではないのでしょうか。

その後、F回数ランキング2位でも名前をよく見かける大正生まれの藤原辰馬選手に引き継がれています。私が、大ベテラン選手が元気に出走していると強く印象に残っているのは94年11月から最年長選手になった池田和作選手。63、65歳といえは、今思えば高塚選手よりもひと回り以上年下の年齢でした。70歳を超えて走った鉄人というレベルの選手は、この表以外には万谷章・山下恭文選手。合わせて5人しかいません。

・年長優出記録（表2-1）  
年長優出記録は高塚選手の76歳0か月。誕生日でもある3月7日に浜名湖での優出でした。最年長優勝は、

たようで、60年目に入った最後までボートレーサーという仕事をされていたことに敬佩いたします。高塚選手は70年3月1日開催のSGクラッシュに、優勝回数5回で選出20位での参戦。22歳11か月で初めてのSGの舞台に立っているということになります。もしかすると登番2000番台で最初のSG出場者なのかもと思つたのですが、それを調べることはできませんでした。

とにかく年長という記録しかわからないのが私には残念です。通算成績など以外で私にわかる記録をまとめていきます。

この表にある71歳2か月の加藤峻二選手となっています。

・年長準優1号艇（表2-2）  
この1位と2位の高塚選手の記録は、日付からわかるように、年末年始やGWのオール静岡での開催です。地元でもあのSG常連の強豪選手もいる中で、年下の選手と一緒に走っての準優1号艇は相当難しいでしょう。

・年長コース別1着（表2-3）  
コース別の1着最年長はすべて高塚選手になります。76歳で5コース、75歳で6コース1着があります。この6コース1着のときは、その日の後半レースでも1着を挙げて1日2勝しています。この日以外にも「1日2勝」を達成していて、22年9月4日の75歳5か月が最年長記録となっています。

表3●高塚選手と一緒に達成された記録

| 項目1 | 項目2        | 年齢差      | 開催日       | 場 | 登番   | 選手1   | 年齢1     | 登番   | 選手2   | 年齢2    |
|-----|------------|----------|-----------|---|------|-------|---------|------|-------|--------|
| 年齢差 | 出走         | 60歳5か月差  | 2025/2/25 | 多 | 2014 | 高塚 清一 | 77歳11か月 | 5390 | 高橋 涼夏 | 17歳6か月 |
| 年齢差 | ワンツー       | 55歳6か月差  | 2022/9/6  | 浜 | 2014 | 高塚 清一 | 75歳5か月  | 5252 | 荒木 颯斗 | 21歳2か月 |
| 年齢差 | 優勝戦・出走     | 53歳0か月差  | 2022/9/8  | 浜 | 2014 | 高塚 清一 | 75歳6か月  | 5068 | 前田 滉  | 22歳5か月 |
| 年齢差 | 優勝戦・ワンツー   | 44歳11か月差 | 2005/2/07 | 戸 | 1485 | 加藤 峻二 | 63歳0か月  | 4296 | 岡崎 恭裕 | 18歳0か月 |
| 年齢差 | GII以上・出走   | 44歳11か月差 | 2007/9/24 | 福 | 1485 | 加藤 峻二 | 65歳8か月  | 4296 | 岡崎 恭裕 | 20歳8か月 |
| 年齢差 | GII以上・ワンツー | 41歳6か月   | 2025/2/9  | 徳 | 3024 | 西島 義則 | 63歳3か月  | 5146 | 野田 彩加 | 21歳9か月 |

| 項目1  | 項目2         | 合計   | 開催日       | 場 | 登番   | 選手1   | 年齢1 | 登番   | 選手2   | 年齢2 | 登番   | 選手3   | 年齢3 |
|------|-------------|------|-----------|---|------|-------|-----|------|-------|-----|------|-------|-----|
| 年齢合計 | ワンツー        | 152歳 | 2024/6/18 | 津 | 2014 | 高塚 清一 | 77歳 | 2538 | 高橋 二郎 | 75歳 |      |       |     |
| 年齢合計 | ワンツースリー     | 212歳 | 2024/6/18 | 津 | 2014 | 高塚 清一 | 77歳 | 2538 | 高橋 二郎 | 75歳 | 3176 | 長谷川 巖 | 60歳 |
| 年齢合計 | 優勝戦・ワンツー    | 122歳 | 2013/3/25 | 戸 | 1485 | 加藤 峻二 | 71歳 | 3072 | 西田 靖  | 51歳 |      |       |     |
| 年齢合計 | 優勝戦・ワンツースリー | 173歳 | 1996/3/17 | 唐 | 1105 | 高橋 隆  | 62歳 | 1395 | 北川 一成 | 57歳 | 1843 | 小林 一生 | 54歳 |
| 年齢合計 | 〃           | 173歳 | 2021/3/16 | 浜 | 2878 | 富山 弘幸 | 62歳 | 3161 | 古場 輝義 | 61歳 | 3422 | 服部 幸男 | 50歳 |

す。

・年長節間1着数(表2-15)

節間1着数別の年長記録です。96年以降、60歳以上で節間で8勝も挙げたケースは1件だけ。半年前に西島義則選手が達成しました。西島選手は61歳と60歳のときに節間7勝を達成していますが、節間7勝の最年長記録は63歳の古谷猛選手が持っています。

節間6勝の方は西島選手が4走目でFを切りましたが、残り3走を全勝で記録を更新。

節間5勝は高橋選手、4〜2勝は高塚選手が持っています。西島選手がこの勢いで全部取っていきそうですが、とにかく節間5勝の場合は西島選手が72歳6か月になるまで、4勝の場合は74歳2か月になるまで絶対に更新ができない、そういう記録です。

**高塚選手と一緒に走って達成されるような記録**

高塚選手自身で達成できる記録ではなく、高塚選手と一緒に走ることで達成された記録をまとめておきます。そのとき一緒に高塚選手がいた、そんな思い出にもなるのではないのでしょうか(表3)。

・年齢差出走

いつか達成されるだろうと思われるいた記録が、高塚選手の最終節、今年2月25日・26日の多摩川で達成されていました。2007年8月生まれの135期新人・高橋涼夏選手と1947年3月生まれの高塚清一選手が25日6Rで出走。史上初、60

歳を超える年齢差のレース、結果は高塚選手が2着でした。自身が還暦を迎えたときにこの世にまだ誕生していない選手とのレース。高橋涼夏選手は引き継いで長く選手を続けてほしいと思います。

・年齢差ワンツー

年齢差ワンツーは愛知支部の荒木颯斗選手とのレースで達成。22年9月浜名湖で55歳6か月差の高塚↓荒木選手のワンツーを達成、その1年後、23年11月蒲郡では逆に荒木↓高塚選手のワンツーを達成しています。

・年齢差優出

その年齢差ワンツーがあった最終日、高塚選手は優出し、22歳5か月の前田滉選手も優出。年齢差53歳0か月の優勝戦となりました。前田滉選手が優勝しました。

・年齢差優勝戦ワンツー

年齢差優勝戦ワンツーとしては、加藤峻二選手(2着)と岡崎恭裕選手(優勝)の年齢差44歳11か月が最も年齢が離れた優勝戦ワンツー。岡崎選手が18歳0か月で初優勝した有名なレースです。

・GII以上で年齢差出走

その2人は2年半後に福岡GI周年で顔を合わせることになります。5着と4着でしたが、この記録がGII以上の年齢差出走記録となっています。

・GII以上で年齢差ワンツー

GII以上で40歳以上の年齢差ワンツーは96年以降出ていなかったのですが、今年のGI地区選で発生していました。2月9日徳山GI地区選で、21歳9か月の野田彩加選手と

63歳3か月の西島義則選手のワンツー。中へこみから野田選手がまくり差し、一時は西島選手に追い越されましたが、抜き返してGI水神祭となりました。

・年齢合計ワンツー

年齢合計ワンツーは、高塚選手と高橋選手の最後のワンツーで合計は152歳。最後の、と言っても高塚・高橋選手のワンツーは実に20年ぶり、当時の年齢合計は112歳なのでした。2人で大きな記録を作ってくれました。

・年齢合計ワンツースリー

2人でも言いましたが、実は3着には60歳の長谷川巖選手が入り、1〜3着の合計年齢は212歳。13年8月に作られた山下恭文↓中村義雄↓加藤峻二選手のワンツースリー203歳の記録を大きく超えました。

**まとめ**

高塚清一選手は20期。高塚選手よりあとにデビューした21期以降では3366人がデビュー。そのうち半数以上の1780人がすでに引退しています。体力的にも精神的にもそして成績的にも強くなければ残れない世界です。その世界で18歳から60年近く長い期間走ってこられました。

今回、私自身まだ今も信じられず、終わりにしたくない気持ちもあり現在進行形のような形で書いたところも多くありました。高塚選手のご冥福をお祈りいたします。